

【参加者の皆様へ】  
表示名変更のお願い

## ※新潟大学生の皆様

表示名を「所属学部又は研究科名（学年）\_氏名」としてください。

### ◎学年の表記

学部生	(例) 4年生 → B4
修士又は博士前期課程	(例) 1年生 → M1
博士（後期）課程	(例) 2年生 → D2

## ※教職員、学外の皆様

表示名を「ご所属\_氏名」としてください。

- ・ご質問はチャット（全体送信）にご入力ください。
- ・メールでのお問い合わせも受け付けています。



# 令和8年度採用・令和8年度補充採用 次世代プロジェクト

—未来社会を牽引するグローバルな総合知を備えた  
フロントランナー育成プロジェクト—

## 募集説明会

2026(令和8)年1月7日(水) 12:00~13:00  
於オンライン(Zoom)



## 次世代プロジェクト 支援制度について

- ・科学技術振興機構（JST）において、  
**SPRING事業の支援制度に関する見直しが行われ、**  
**今回の募集で選考する学生から、支援内容が一部変更**になります。

＜変更内容は、以下のとおり＞

- ・**留学生には生活費相当額を支給しません。**  
**(2026（令和8）年4月から1年間のみ生活費相当額の支給が認められる場合があります)**

- ・**研究費のみ支給する社会人等枠を新設しました。**  
**(今回募集するうち、申請区分【1】申請要件〈2〉が該当)**

<https://www.jst.go.jp/report/2025/250709.html>



詳細につきましては、以降のスライド及び下記ページをご覧ください。

- ・PhDリクルート室 次世代プロジェクト募集要項・Q&A掲載ページ

<https://www.phd.niigata-u.ac.jp/student/fellowship/shinzisedaipj/application-guidelines/>

## (1) 本学における博士支援体制について

## (2) 次世代プロジェクトについて

- ・新潟大学でこれから育成する博士人材像
- ・申請要件・採用予定者数、支援期間、申請条件
- ・概要（キャリアコンテンツ等）、支援内容
- ・各ユニット、ポイント制について

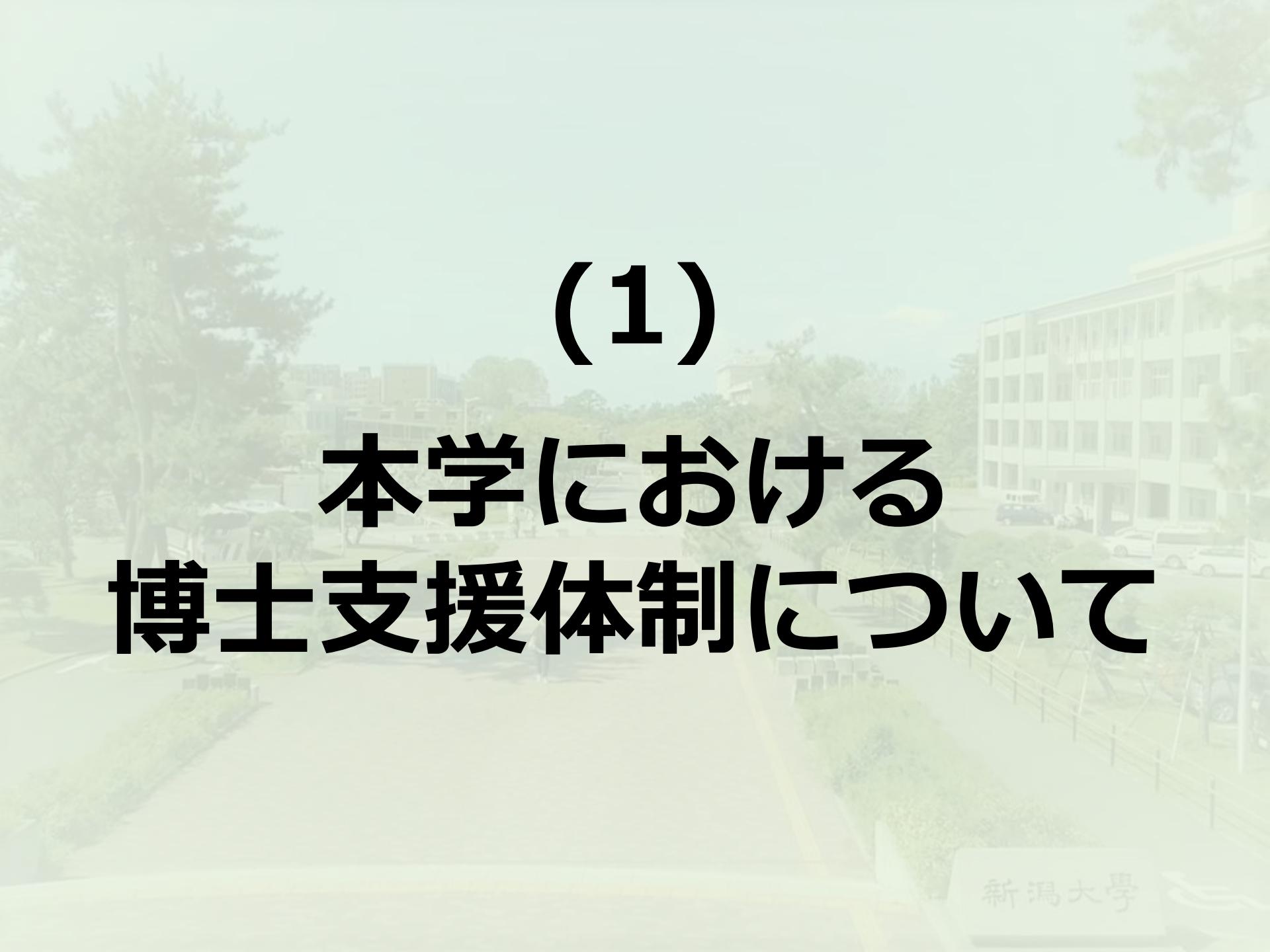
## (3) PhDリクルート室・PhDリサーチサポート室について

## (4) 学生募集について：募集要項・申請書類の説明

## (5) 今後の予定等

## (6) 質疑応答

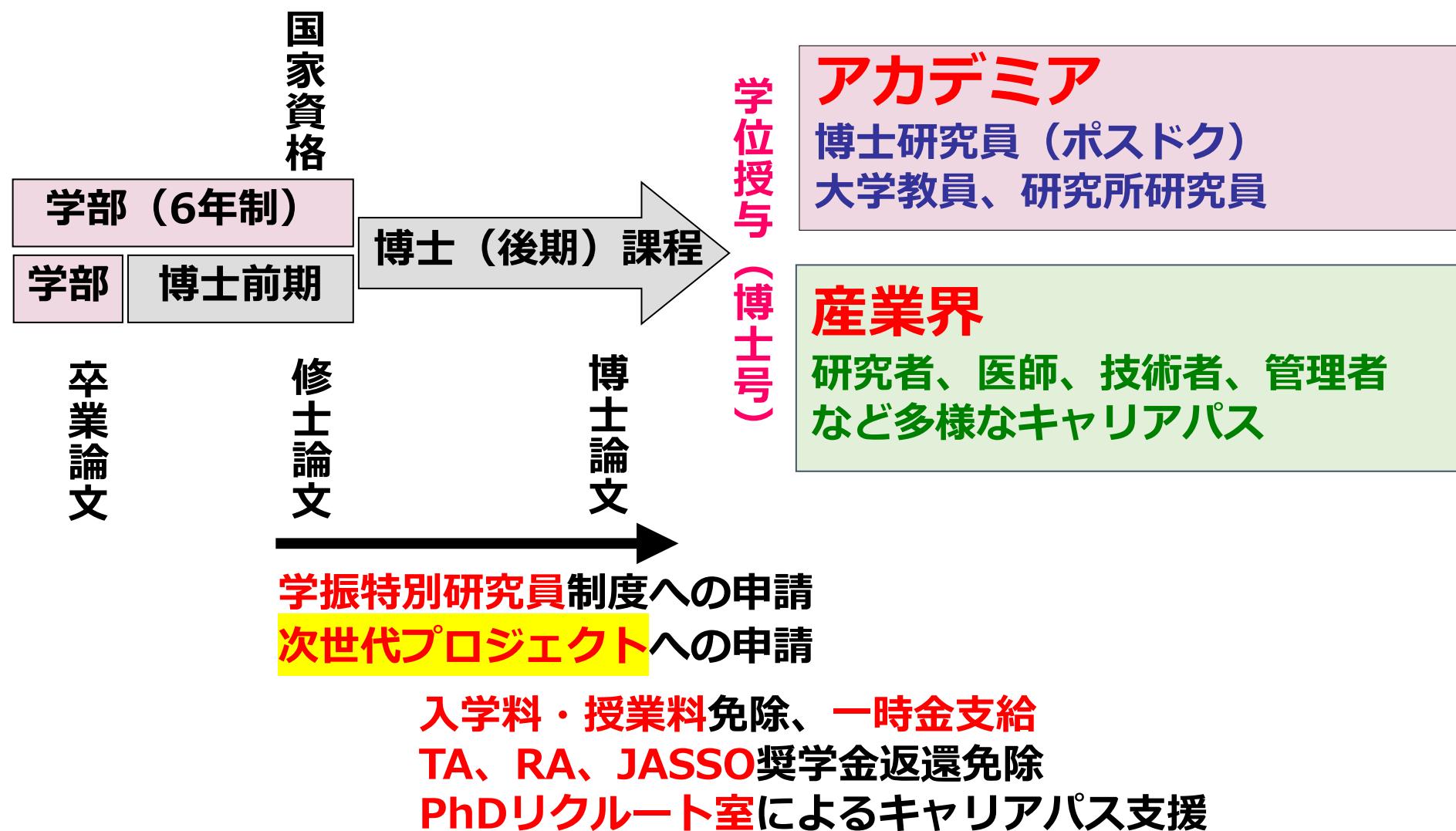




# (1)

## 本学における 博士支援体制について

# 博士（後期）課程の流れ



## アカデミアリクルート

### 博士離れの主な要因

- 経済的な不安
- 就職に関する不安
- 孤立しがちな立場

## 魅力的なプログラム

### 安心・充実した博士生活のための対策

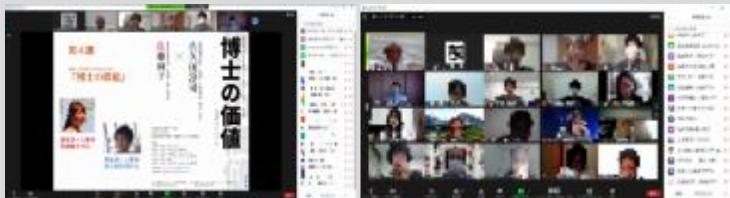
- 優秀な学生への経済支援→経済的な余裕
- キャリアパス構築支援→明確な進路像
- 専属メンターの配置→相談できる環境

## 社会での活躍

### 多様なキャリアパス

- 産業界への就職
- アカデミアポスト獲得
- イノベーション創出起業

マッチングイベント等によるキャリアパス支援 (PhDリクルート室) → メンター制度による研究環境支援 (PhDリサーチサポート室)



博士課程進学へのモチベーション  
(カスタマージャーニーマップ分析による)

## ■ 次世代研究者挑戦的研究プログラム

## ■ 早期支援



# 新潟大学における博士学生支援体制



理事[研究・大学院]  
副学長

末吉 邦



副学長[大学院]  
PhDリクルート室長

本田 明治

## メンター教員

- 現代社会文化研究科



伊藤 龍史



- 自然科学研究科



関島 恒夫 豊田 光世 中馬 吉郎 安田 浩保

- 保健学研究科
- 医歯学総合研究科



齋藤 あや



井上 誠

## PhD リサーチサポート室

研究  
相談  
融合  
研究



村山 敏夫



石田 悠貴



## PhDリクルート室

[phdrecruit@gs.niigata-u.ac.jp](mailto:phdrecruit@gs.niigata-u.ac.jp)

本田 明治

総合  
相談窓口  
キャリア  
パス  
就職  
相談  
奨学金  
情報

## 協力教員



飯島 敦彦



村山 敏夫



寺尾 豊

支援・サポート

相談

## 博士(後期)課程学生

採択

研究費支給  
生活費相当額支給  
コンテンツ提供



## UA室

融合  
研究



永島 伸多郎

院生会  
学生  
交流



新大  
院生会

## 次世代プロジェクト

### 事業統括



本田 明治

### 専門深化



寺尾 豊

### 創生 (クロスAI)



飯島 淳彦

### キャリア



弥富 洋子

### 学際研究



村山 敏夫



【制度や事務手続き】

新潟大学次世代研究者挑戦的研究プログラム事務局  
[nu-jisedai@gs.niigata-u.ac.jp](mailto:nu-jisedai@gs.niigata-u.ac.jp)

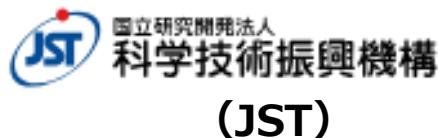
(2)

新潟大学

次世代プロジェクト  
について

新潟大学

2024 (R6) ~



## 令和6年度次世代研究者挑戦的研究プログラム (SPRING) ～博士後期課程学生の挑戦を支援する～



未来社会を牽引するグローバルな総合知を備えた  
フロントランナー育成プロジェクト

実施  
支援提供

参加  
成果報告

支援学生



※ 中間評価の結果、経費の削減や中止の措置もあり得る。  
(JST SPRING公募要領より)

<https://www.jst.go.jp/jisedai/spring/dl/application-guideline-2024SPRING.pdf>

## JST 事業概要（HPより）

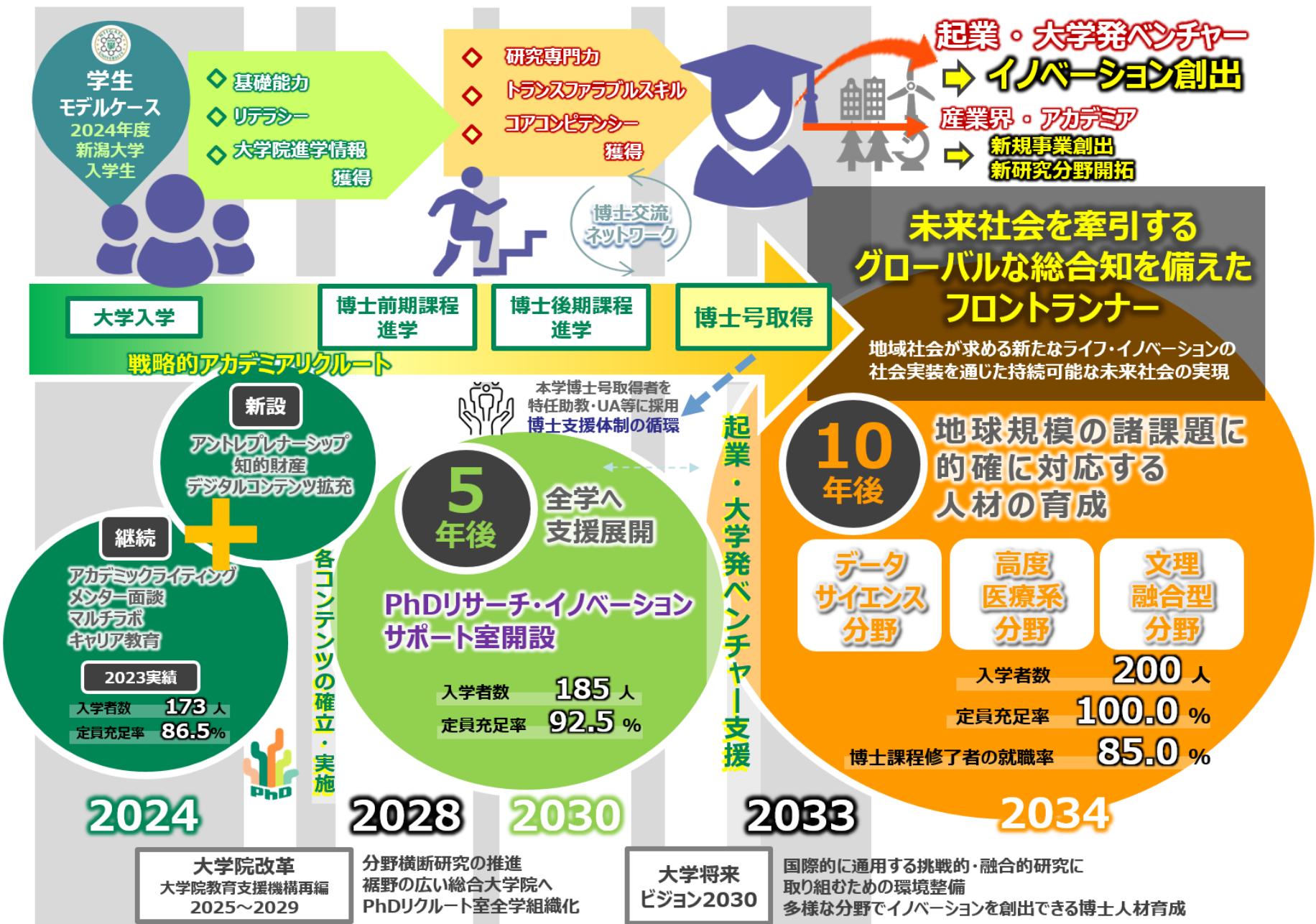
博士後期課程学生は、我が国の科学技術・イノベーションの将来を担う存在ですが、近年、「博士課程に進学すると生活の経済的見通しが立たない」「博士課程修了後の就職が心配である」等の理由により、修士課程から博士後期課程への進学者数及び進学率がいずれも減少傾向にあるなど、危機的な状況が指摘されています。

すなわち、①我が国の科学技術・イノベーションの将来を担う優秀な志ある博士後期課程学生への経済的支援を強化し、②博士人材が幅広く活躍するための多様なキャリアパスの整備を進めることに、一刻の猶予もなくなりつつあります。また、このような現状に至る背景の1つとして、我が国の博士課程教育システム自身が、社会のニーズの変化を踏まえた戦略的な変革を十分に進められていないという構造的な課題があり、その結果、既存の枠組みを越えた挑戦的・融合的な研究も生まれにくくなっていることなども指摘されています。

本事業は、このような状況を打破するため、上記の①や②を一体として主体的に行う実力と意欲のある大学について、新たに大学の研究科や研究室など既存の枠組みを越えて優秀な博士後期課程学生の選抜等を行う事業統括を選定し、そのリーダーシップのもと、当該博士後期課程学生に対する様々な支援を実施・展開する大学の取組を国として支援するものです。

事業統括により選抜された優秀な博士後期課程学生は、所属元の変更などのポータビリティを担保した上で自身の自由で挑戦的・融合的な研究に専念し、あわせて当該博士後期課程学生に対しては、生活費相当額及び研究費の支給や、キャリア開発・育成コンテンツ（国際性の涵養、学際性の涵養、キャリア開発、トランスファラブルスキルの習得、インターンシップ等）をはじめとする様々な支援が提供されます。

# 新潟大学でこれから育成する博士人材像



採用区分	申請区分	申請要件（課程・年次等）	採用予定者数
令和8年度 採用	[1]	<p>〈1〉2026（令和8）年4月に、下記の本学大学院博士課程・年次に入学し、在学する予定の者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医歯保健学研究科の博士（後期）課程・第1年次</li> </ul>	12名
		<p>〈2〉2026（令和8）年4月に、下記のいずれかの本学大学院博士課程・年次に入学し、在学する予定の<b>社会人学生等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会文化研究科・自然科学研究科の博士後期課程・第1年次</li> <li>・医歯保健学研究科の博士（後期）課程・第1年次</li> </ul>	
令和8年度 補充採用	[2]	<p>2026（令和8）年4月に、下記の本学大学院博士課程・年次に在学する者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医歯学系の4年制の博士課程・第2年次</li> </ul>	1名程度
	[3]	<p>2026（令和8）年4月に、下記のいずれかの本学大学院博士課程・年次に在学する者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区分制の博士後期課程・第2年次</li> <li>・医歯学系の4年制の博士後期課程・第3年次</li> </ul>	2名程度
	[4]	<p>2026（令和8）年4月に、下記のいずれかの本学大学院博士課程・年次に在学する者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区分制の博士後期課程・第3年次</li> <li>・医歯学系の4年制の博士課程・第4年次</li> </ul>	2名程度

※医歯保健学研究科の学生については、前回の学生募集において募集時期を延期していることから、一定の支援対象者数を確保するため、選考に当たってその点を考慮する場合がある。

## 支援期間

支援期間は、2026（令和8）年4月以降から、申請区分〔1〕においては最大3年間（4年制の場合は4年間）、申請区分〔2〕は最大3年間、申請区分〔3〕は最大2年間、申請区分〔4〕は最大1年間とする。いずれも、在学期間が3年間（4年制の場合は4年間）を越える場合、以降の期間は支援対象外とする。

出産・育児等のライフイベントを経た者については、個別の事情に応じ、支援期間の中斷・延長等も可能とする。

1. 申請者は、JST SPRING事業及び新潟大学次世代プロジェクトの趣旨を理解し、優れた研究能力あるいは資質・意欲を有し、自由かつ柔軟な発想による挑戦的・融合的な研究に専念することを希望し、かつ上記の申請要件及び下記の条件を満たす者とする。

年齢制限、研究分野の指定は設けない。

2. 次に掲げる事項を全て遵守できる者とする。

- (1) **申請した研究計画を踏まえた研究活動に専念** すること。
- (2) **キャリア開発・育成コンテンツに参加** ※1 すること (社会人学生（申請区分【1】〈2〉の申請条件（2）～（4）に該当する者）を除く）。
- (3) **博士学生交流会** ※2 に参加すること。
- (4) 年度始めに **研究計画書**、年度末に **研究成果報告書** を提出すること。
- (5) **メンターによる面談** を定期的に受けること。
- (6) **Researchmapに登録し、業績を更新** すること、  
及び修了後10年以上に渡って実施する  
**キャリアについての追跡調査を始め、各種調査に協力** すること。
- (7) **各種研究法令及び学内規程等を遵守し、研究インテグリティ（研究の健全性・公正性）の自律的な確保** ができること。

※1 選択ユニットにより必須となるキャリア開発・育成コンテンツは異なる（後述）。

※2 博士学生が大学横断的に交流を行う交流会。宿泊を伴う可能性もある。

## ○申請区分〔1〕の申請要件〈1〉及び申請区分〔2〕〔3〕〔4〕の場合 次に掲げる者を除く。

- (1) 生活費に係る十分な水準（240万円／年）の給付型の奨学金を得ている学生
- (2) 所属する大学や企業等から、生活費相当額として十分な水準 ※1 で、給与・役員報酬等の安定的な収入を得ていると認められる学生
- (3) JST SPRING事業と同趣旨の、学生自身の自由で挑戦的・融合的な研究に専念するための国費による研究費等の支援を受ける者 ※2
- (4) 留学生で、国内外の機関・法人に役員・職員等として所属しながら大学院に籍を置く者（申請区分〔1〕の申請要件〈2〉の申請条件に当てはまれば、研究費の支援対象となる。）

※1 生活費相当額として十分な水準は、240万円／年を基準とする。

※2 例) ・独立行政法人日本学術振興会（JSPS）の特別研究員  
・独立行政法人国際協力機構（JICA）から支援を受けるJICA留学生  
・JST「日ASEAN科学技術・イノベーション協働連携事業（NEXUS）」の若手育成対象者

## ○申請区分 [1] の申請要件 <2> の場合 次のいずれかに該当する者。

- (1) 生活費に係る十分な水準（240万円／年）の給付型の奨学金を得ている学生
- (2) 生活費相当額として十分な水準 **※1** で、給与・役員報酬等の安定的・固定的収入を得ていると認められる者（いわゆる社会人学生）のうち、日本の法人格を有する会社法人、国家公務員、地方公務員、企業以外の法人（独立行政法人、財団法人／社団法人、医療法人、NPO法人等）の職員等
- (3) 海外の機関・法人のみに所属し、かつその所属が海外の大学及び公的研究機関等非営利の機関・法人である者（収入の有無に関わらず）
- (4) 日本政府から奨学金を得ている留学生（国費外国人留学生制度の対象学生）のうち、政府所属の者（収入の有無に関わらず）

ただし、JST SPRING事業と同趣旨の、学生自身の自由で挑戦的・融合的な研究に専念するための国費による研究費等の支援を受ける者は除く。**※2**

## ○海外の営利の機関・法人にのみ所属している留学生は、支援対象とならない。

- ※1** 生活費相当額として十分な水準は、240万円／年を基準とする。
- ※2** 例)
  - ・独立行政法人日本学術振興会（JSPS）の特別研究員
  - ・独立行政法人国際協力機構（JICA）から支援を受けるJICA留学生
  - ・JST「日ASEAN科学技術・イノベーション協働連携事業（NEXUS）」の若手育成対象者

## 留学生の採用について

JST SPRING事業の公募要領に基づき、留学生においては、  
**修了後の日本への定着及び日本の国際競争力向上への貢献を視野に入れ、  
日本の科学技術・イノベーションに貢献するキャリアに進むことが求められる。**

また、多様な国・地域、特にASEAN諸国からの受入れを積極的に図ることが  
JSTの公募要領にて求められているため、選考に当たってその点を考慮する場合がある。

## ※支援対象となる留学生

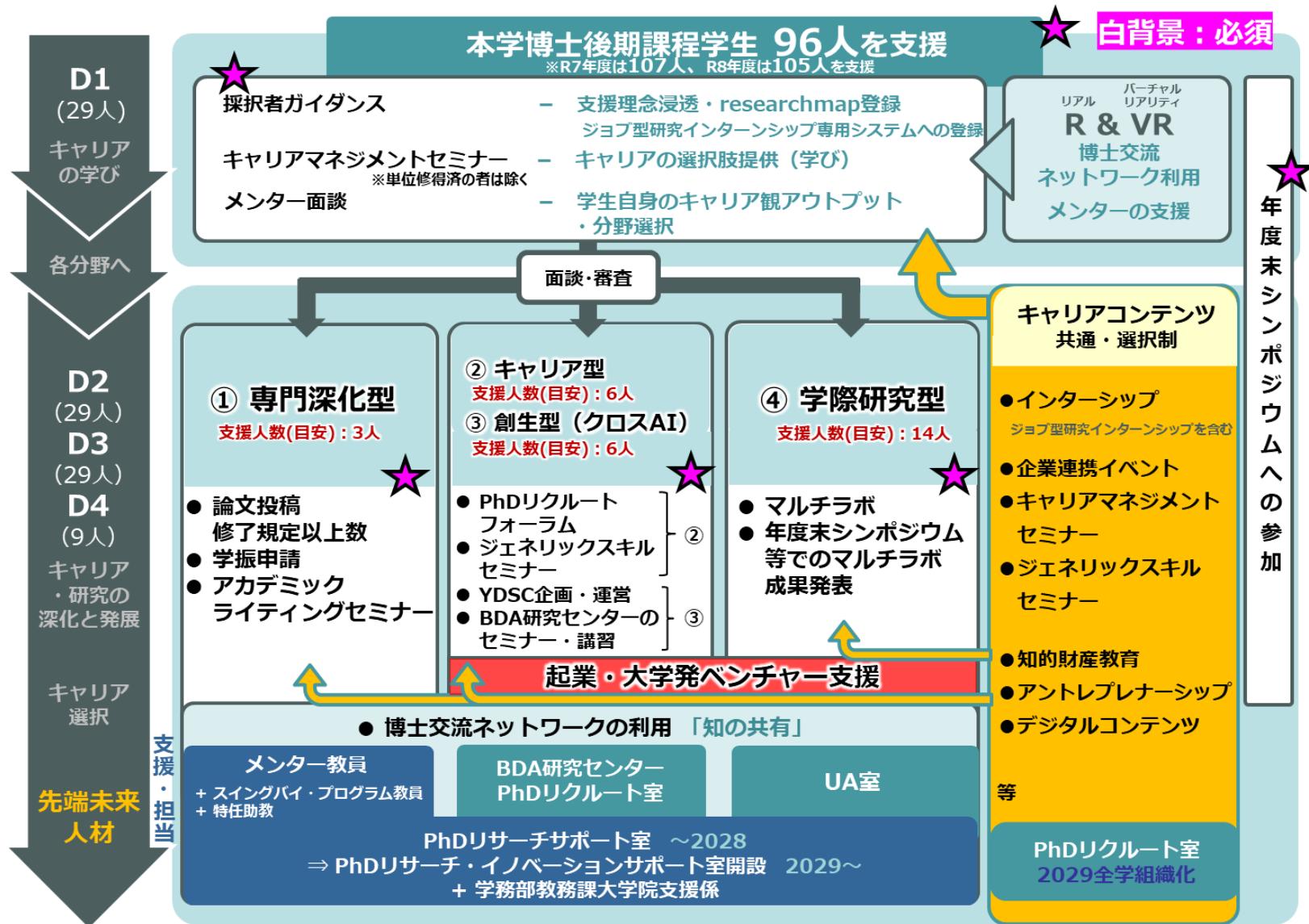
「留学」の在留資格をもって日本に滞在する者とする。

(別紙「研究奨励費 支援対象確認表」で対象の可否：×に当てはまるものも含む)

# 別紙「研究奨励費支援対象確認表」

区分	該当例	在留期間	対象の可否
①日本国籍有する者	日本人、日本に帰化した外国人	-	○
②特別永住者 (日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法第3条)	入管特例法第3条の規定による法定特別永住者として本邦に在留する者	無制限	○
③永住者、日本人の配偶者等、永住者の配偶者等 (出入国管理及び難民認定法別表第2)	永住者 法務大臣から永住の許可を得た者 日本人の配偶者等 日本人の配偶者、子、特別養子 永住者の配偶者等 永住者・特別永住者の配偶者及び本邦で出生し引き続き在留している子	無制限 5年、3年、1年又は6月 5年、3年、1年又は6月	○ ○ ○
④定住者 (出入国管理及び難民認定法別表第2)	一定範囲のインドシナ難民、一定範囲のベトナム難民、日系3世、定住者の配偶者、帰化した日本人・永住者・特別永住者・定住者の実子、中国残留邦人及びその子、日本人の実子を扶養する外国人親など 上記のうち将来永住する意思があると認められた者	5年、3年、1年又は6月又は法務大臣が個々に指定する期間（5年以内）	× ○
⑤家族滞在 (出入国管理及び難民認定法別表第1)	教授、芸術、宗教、報道、高度専門職、経営・管理、法律・会計業務、医療、研究、教育、技術・人文知識・国際業務、企業内転勤、介護、興行、技能、特定技能2号、文化活動又は留学の在留資格をもって在留する者の扶養を受ける子など ①上記のうち、下記のいずれにも該当する者 ・国内で出生又は12歳に達した日の属する学年の末日までに初めて入国した者 ・日本の小学校等から高校等までを卒業・修了した者 ・大学等の卒業・修了後も日本で就労して定着する意思があると認められた者 ②本邦における在留期間とその他の事情を総合的に勘案して①に掲げる者に準ずると認められた者	法務大臣が個々に指定する期間（5年以内）	× ○
⑥右記の在留資格により在留する者 (出入国管理及び難民認定法別表第一の一から五)	(1) 外交、公用、教授、芸術、宗教、報道 (2) 高度専門職、経営・管理、法律・会計業務、医療、研究、教育、技術・人文知識・国際業務、介護、企業内転勤、興行、技能、技能実習 (3) 文化活動、短期滞在 (4) 留学、研修 (5) 特定活動	区分の内容に応じて15日から5年の期間（高度専門職の一部は無制限）	×

# 次世代プロジェクト 概要図



ベンチャー企業の輩出  出身後も新潟大学と産学連携  イノベーションに貢献

キャリアコンテンツの取り組み状況の評価にあたってはポイント制を導入

## 支援内容

### (1) 生活費相当額

- ・申請区分〔1〕〈1〉、〔2〕、〔3〕、〔4〕の申請要件・条件を満たす日本人学生には、月17.5万円を2か月毎に支給する。
- ・留学生には生活費相当額を支給しない（別紙「研究奨励費 支援対象確認表」参照）。
- ・ただし、申請区分〔1〕〈1〉、〔2〕、〔3〕、〔4〕の申請要件・条件を満たす私費外国人留学生で、選考審査において特に優秀と認められた者には、2026（令和8）年4月から1年間のみ生活費相当額の支給が認められる場合がある。
- ・申請区分〔1〕〈2〉の申請要件・条件を満たす社会人学生等には、生活費相当額は支給しない。

## 支援内容

### (2) 研究費 各ユニットに以下を支給 (年額)

初年次 (共通メニュー時)	:	20万円
2年次以降 ①専門深化ユニット	:	20万円
②キャリア型ユニット	:	20万円
③創生型ユニット	:	30万円
④学際研究型ユニット	:	40万円

### (3) メンターによる研究環境支援及びアカデミアまたは産業界へのキャリア形成に関する助言や提言

### (4) PhDリクルート室によるジェネリックスキル獲得のためのセミナー等、キャリア開発・育成コンテンツの提供 (社会人学生 (申請区分 [1]) 〈2〉の申請条件 (2) ~ (4) に該当する者) を除く)

※ 本制度では、授業料の免除は支援内容に含まれません。

授業料の免除を希望する方は、新潟大学独自で実施する授業料免除および徴収猶予制度へ各自お申込みください。

# ユニット紹介

新潟大学

# 専門深化型ユニット



## 目指す将来像



- ①日本の科学技術・イノベーションに貢献する(アカデミアの)研究人材
- ②日本へ定着および日本の国際競争力向上に貢献できることが望ましい
- ③留学生は、支援期間内に日本語能力試験N2を取得することが望ましい



## 必須コンテンツ

支援期間の終了までに、

- ①博士課程修了規定以上の数の論文を投稿すること

支援期間の毎年度に、

- ②学振特別研究員への申請
- ③アカデミックライティングセミナーへの参加



## ユニット長

医歯保健学 教授・寺尾 豊

(科研費・学振・JST・AMED審査員)



# キャリア型ユニット

将来像

環境変化にしなやかに対応できる  
「博士イノベーター」

必須  
コンテンツ  
(支援期間中  
各1回以上)

○あらゆる場で、自身の博士課程で培った力（研究力含む）を発揮し、課題発見・解決を行い、イノベーションを創出する人材（産業界に限定していません）

- ・専門外にもアンテナを立て、多様な社会人との接点をもち、自身を鍛える
- ・人間力を高めるために、ジェネリックスキルを身につける
  - ◆PhDリクルートフォーラム
  - ◆ジェネリックスキルセミナー3講
    - ・交渉学
    - ・プロジェクトファシリテーション
    - ・研究者のためのビジネスマナー

ユニット長：PhDリクルート室 弥富洋子



# 創生型(クロスAI)ユニット

将来像

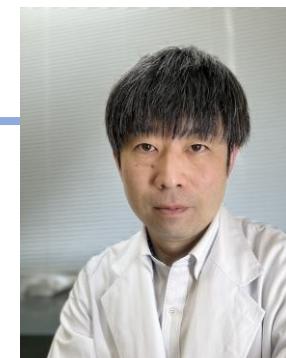
## クロスAI分野で イノベーションを創出できる博士人材

- 情報・AI関連技術を活用して専門的研究の推進できる
- 情報・AI関連技術を活用してイノベーションを起こせる
- 情報・AI関連技術をハブとして、異分野とコラボできる

必須  
コンテンツ  
(支援期間中  
各1回以上)

- 加速化・多様化するデータサイエンスに関する知見や技術を習得
- キャリア支援メニューによりトランスファラブルスキルを習得
  - ◆ YDSCの企画・運営（支援期間中1回以上）
  - ◆ ビックデータアクティベーション研究センターのセミナー・講習への参加（支援期間中1回以上）

ユニット長：自然科学系情報電子工学系列（工学部）教授  
飯島 淳彦



# 学際研究型ユニット

## ユニットの目指すビジョン

- ・異分野融合で研究力が強化できるユニット
- ・自由な発想と創造ができる若手人材が育成されるユニット
- ・ムーンショット思考が生まれる環境のユニット



学際ユニット長：村山敏夫  
(PhDリサーチサポート室長)

## 学生に養われる能力

- ・主体的で複合的な研究に取り組む能力
- ・障壁を乗り越える能力
- ・未来を創造できる能力
- ・仲間と一緒に協働できる能力



## 能力を獲得するためのマルチラボ＆学内発表（必須コンテンツ）

①マルチラボ：異分野研究室への学内短期留学（原則3ヶ月）

②学内発表：U-goサロン、シンポジウムなど

- ・多彩で多様な研究分野の人材とつながるコンテンツ
- ・異分野の研究室で新しい知見・考え方を学ぶ
- ・活動を通じて得た経験・成果を発表し意見交換



## 学際研究型ユニットの支援体制

- ・メンター教員による個別面談対応
- ・若手教員による距離感近いサポート
- ・メタバース空間(oVice)を活用したカジュアルな意見交換

# 各コンテンツ参加とポイント制について

## 概要

2年次から分かれる4つの人材育成ユニット毎に、  
**必須の活動 + 自身で選択可能なコンテンツ**に取り組む。

→ ポイント制で  
実施状況確認

## コンテンツ毎のポイント

### <共通>

- ・キャリアマネジメントセミナー履修・単位取得 **2 pt**
  - ・年度末シンポジウム（参加）\*（支援期間内毎年度） **1 pt**
  - ・年度末シンポジウム（発表）\*（支援期間内1回以上） **1 pt**
- \*毎年参加毎に1 pt加算

**6 pt**

必須

### <ユニット毎必修> 2年次以降

#### 専門深化

- ・学振申請（DC2・PD）
- ・規定数以上論文投稿
- ・アカデミックライティング受講

**5 pt**  
**5 pt**  
**2 pt**

**12 pt**  
+選択2 pt

#### キャリア

- ・PhDリクルートフォーラム参加
- ・交渉学、プロジェクトファシリテーション、研究者のビジネスマナー実践 各1 pt (計3 pt)

**5 pt**  
各1 pt (計3 pt)

**8 pt**  
+選択6 pt

#### 創生 (クロスAI)

- ・BDA研究センター夏期講習参加
- ・若手データサイエンティストコロキウム(YDSC)運営・開催

**2 pt**  
**5 pt**

**7 pt**  
+選択7 pt

#### 学際

- ・マルチラボ実施
- ・マルチラボ（学際的研究）成果に関する学内発表

**5 pt**  
**2 pt**

**7 pt**  
+選択7 pt

- ・交渉学
- ・プロジェクトファシリテーション
- ・博士交流会
- ・研究者のビジネスマナー実践
- ・JST主催ハイブリッド発表
- ・博士のためのキャリアセミナー

**各1 pt**

- ・インターンシップ
- ・企業研究サイトビジット
- ・13大学合同企業説明会
- ・アカデミックライティング
- ・BDA研究センター夏期講習
- ・U-go発表 **各2 pt**

- ・他大学マッチングイベント
- ・三大学交流会
- ・博士のための経営・起業入門セミナー
- ・学振採択 **20 pt**

- ・YDSC
- ・マルチラボ
- ・PhDリクルートフォーラム
- ・規定数以上論文投稿
- ・学振申請
- ・ディヨフ型研究インターンシップ

**各5 pt**

ほか発表内容や論文IF等で追加ptあり

合計  
**20** ポイント以上

- ・他ユニットの必須項目も選択の中から受講・ポイント取得可能
- ・1年次終了までに**9 pt**、2年次終了までに**計18 pt**取得を推奨
- ポイント数（実施状況）によって研究費増額申請可否や支援継続を判断

## ポイント管理システム概要

## ポイント管理システム

これから



次世代生

- ① 参加登録  
ポイント申請

いつでも状況を正確に確認  
参加登録とポイント申請を同時にできる

- ① コンテンツの公開



管理システム

- ④ 自動で反映・集計

- ② 出席・レポート等  
確認



運営

齟齬なく次世代生の  
状況を把握

これまで



次世代生

イベントに参加・論文発表  
などでポイント取得  
↓

取得したポイントを自分で管理

年1回の研究報告書でしかポイント  
取得状況のすり合わせができず、  
齟齬が発生する危険性があった



運営

主催イベントなどの  
出席状況から  
ポイント状況を管理

# 2025年度スケジュール (参考・一部抜粋)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----

## ● キャリアマネジメントセミナー

### ● 博士のための経営・起業入門セミナー

#### ● ● ● ジェネリックスキルセミナー

### ● 英語論文ライティング講座(6~8月 導入編2回、基礎編4回、上級編4回)

・交渉学 (6/4)

・プロジェクトファシリテーション (6/20)

・研究者のためのビジネスマナー (7/4)

### ● 13大学企業合同説明会 (7/10・11)

### ● U-goサロン (未定)

### ● スキルアップセミナー(未定)

### ● BDA研究センター夏期講習 (9月頃)

### ● PhDリクルートフォーラム (9/18)

### ● 未来の博士ゼミ (10/22)

旧：博士のためのキャリアセミナー

### ● 博士交流会 (10月頃)

### 13大学合同博士研究交流会 (11/10・11) ●

(3大学合同博士研究融合セミナー)

### 企業研究サイトビット (8/29) ●

## ● 新規採択者ガイダンス

### ● YDSC2026 (11/7)

### U-goサロン (未定) ●

### ● 年度末シンポジウム ●

### ● メンター面談 (9~10月頃)

### ● 研究報告書提出 ●

● : 参加必須項目

● : ポイント項目  
(ユニットにより必須)  
※詳細はコンテンツ・ポイント  
一覧をご覧ください

(3)

新潟大学

PhDリクルート室  
PhDリサーチサポート室



## 博士後期課程学生が修了後活躍するためのサポート

アンテナと適応力を高め、専門性を活かし  
「高度人材・知のプロフェッショナル」への支援

### 「博士イノベーター」として活躍

#### 多様なキャリパス

(産業界、起業、アカデミア、官公庁・・・)

インターンシップ (JOB型含)

企業研究サイトビジット

PhDリクルートフォーラム

ジェネリックスキルセミナー

未来の博士ゼミ

博士のためのキャリアマネジメントセミナー

キャリア相談

ジェネリックスキル習得

学外との接点提供

## PhDリクルート室

五十嵐キャンパス総合教育棟2F D204室

☎ 025-262-7217

✉ phdrecruit@g.s.niigata-u.ac.jp



## ①博士学生の研究支援

- ・外部競争資金獲得のためのノウハウ提供
- ・学内外のトップ研究者との意見交換の場面設定

- 学振ライブラリ、学振添削サポートなど
- メンター面談など

## ②分野横断融合的研究機会構築

- ・マルチラボ実施時の助言と支援
- ・博士学生同士、博士学生と教職員交流の提供
- ・学際的研究成果の発表機会

- メンター面談
- 博士交流会など
- シンポジウム構想中

## 次世代生との関わり方



PhDリサーチサポート室長

村山 敏夫

### ① 専門深化型

次世代生

### ② キャリア型 ③ 創生型（クロスAI）

フェローシップの後継型

旧次世代プロジェクトの後継型

### ④ 学際研究型

相談

総合的研究支援  
分野横断融合的研究機会構築

PhDリサーチサポート室 & メンター教員

丁寧な支援と大胆な発想に対する後押しで博士学生の研究力を高める

(4)

# 学生募集について

## よくご確認ください

募集要項・Q&A  
掲載ページ



<https://www.phd.niigata-u.ac.jp/student/fellowship/shinzisedaipj/application-guidelines/>

次世代プロジェクト  
概要と特色 掲載ページ



<https://www.phd.niigata-u.ac.jp/next-generation-project/about/>

採用区分	申請区分	申請要件（課程・年次等）	採用予定者数
令和8年度採用	[1]	<p>〈1〉2026（令和8）年4月に、下記の本学大学院博士課程・年次に入学し、在学する予定の者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医歯保健学研究科の博士（後期）課程・第1年次</li> </ul> <p>〈2〉2026（令和8）年4月に、下記のいずれかの本学大学院博士課程・年次に入学し、在学する予定の<b>社会人学生等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会文化研究科・自然科学研究科の博士後期課程・第1年次</li> <li>・医歯保健学研究科の博士（後期）課程・第1年次</li> </ul>	12名
令和8年度補充採用	[2]	<p>2026（令和8）年4月に、下記の本学大学院博士課程・年次に在学する者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医歯学系の4年制の博士課程・第2年次</li> </ul>	1名程度
	[3]	<p>2026（令和8）年4月に、下記のいずれかの本学大学院博士課程・年次に在学する者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区分制の博士後期課程・第2年次</li> <li>・医歯学系の4年制の博士後期課程・第3年次</li> </ul>	2名程度
	[4]	<p>2026（令和8）年4月に、下記のいずれかの本学大学院博士課程・年次に在学する者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区分制の博士後期課程・第3年次</li> <li>・医歯学系の4年制の博士課程・第4年次</li> </ul>	2名程度

※医歯保健学研究科の学生については、前回の学生募集において募集時期を延期していることから、一定の支援対象者数を確保するため、選考に当たってその点を考慮する場合がある。

推薦書・同意書  
の記入依頼



申請登録  
フォームの入力

推薦書：申請者をよく知る方（可能な限り、博士（後期）課程における受入教員（指導教員））を推薦者に立てて記入を依頼し、推薦者がメールで提出すること。

同意書：必ず博士（後期）課程における受入教員（指導教員）に記入を依頼し、指導教員（受入教員）がメールで提出すること。



<https://forms.office.com/r/Ur2P3L3iSX>  
※募集（申請）期間のみ入力可能です。

申請書を  
メールで提出

パソコンで作成後、自署欄に直筆で記名したものをPDFファイルに変換し、所定のパスワードをつけて送付すること。

提出先：新潟大学次世代研究者挑戦的研究プログラム事務局  
[fs-spring@g.s.niigata-u.ac.jp](mailto:fs-spring@g.s.niigata-u.ac.jp)

(5)

# 今後の予定等

募集（申請）期間	1/23（金）～1/27（火） <u>23:59まで</u>
第一次審査結果通知	2/26（木）まで
第二次審査（面接）	3/4（水）～3/5（木）
結果通知	3/23（月）まで

## 【問い合わせ先】

新潟大学次世代研究者挑戦的研究プログラム事務局（学務部教務課大学院支援係）  
E-mail（学生募集専用）：[fs-spring@gs.niigata-u.ac.jp](mailto:fs-spring@gs.niigata-u.ac.jp)

## 【新潟大学の博士支援関連サイト】

PhDリクルート室：<https://www.phd.niigata-u.ac.jp>

博士ポータル：<https://portal.phd.niigata-u.ac.jp>

次世代プロジェクト：<https://www.phd.niigata-u.ac.jp/student/fellowship/shinzisedaipj/>

# 募集要項

新潟大學

# 令和8年度採用・令和8年度補充採用 未来社会を牽引するグローバルな総合知を備えたフロントランナー育成プロジェクト (次世代プロジェクト) 支援対象者募集要項

新潟大学は、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が公募した「令和6年度次世代研究者挑戦的研究プログラム(SPRING)～博士後期課程学生の挑戦を支援する～」に採択され、本プロジェクト「未来社会を牽引するグローバルな総合知を備えたフロントランナー育成プロジェクト」を実施しています。

## 【趣旨】

新潟大学では、既存の枠組みにとらわれない挑戦的・融合的な研究に取り組むことができ、また多様な分野でイノベーションを創出できる次世代の博士人材を育成するべく、未来社会を牽引するグローバルな総合知を備えたフロントランナー（※1）育成プロジェクト（以下、次世代プロジェクト）を設け、優秀な博士課程学生の処遇向上とキャリアパスの支援に取り組みます。次世代プロジェクトに採用された学生には研究奨励費として生活費相当額及び研究費が支給されるだけでなく、学内のキャリアパス支援プログラムに参加すること、学内短期留学制度による挑戦的・融合的な研究に取り組むこと等が求められ（※2）、学位取得後には期間中に培った能力を生かして産業界を中心とする社会の様々な場で活躍することが期待されます。本学の次世代プロジェクト制度の趣旨をよく理解し、将来の我が国の科学技術・イノベーションを担う意欲に溢れる博士課程学生が数多く申請することを希望します。

※1 新潟大学は、将来ビジョン2030を策定し、「未来のライフ・イノベーションのフロントランナーとなる」を掲げています。本学におけるライフ・イノベーションの定義は、『医療・健康・福祉分野に留まらず、21世紀を生きるわれわれの「生命」、「人生」、「生き方」、「社会の在り方」、「環境との関わり」と、それらの土台となる「地球」や「自然」についての新たな価値と意味を生み出すための革新』です。詳細は、<https://www.niigata-u.ac.jp/university/about/vision/vision2030/> 参照。

※2 JST SPRING事業では、年度毎に報告書等の提出が求められており、JSTによる中間評価も予定されています。それら評価の結果、経費の減額や中止の措置もあり得ることが明記されています。JST SPRING の公募要領及びFAQは以下URLを参照。

<https://www.jst.go.jp/jisedai/spring/dl/application-guideline-2024SPRING.pdf>

<https://www.jst.go.jp/jisedai/spring/dl/fy2025/faq-2025SPRING.pdf>

また、JST SPRING事業は、制度の見直しが行われ、今回の募集で選考する学生から、支援内容が一部変更になります。変更内容は、以下のとおりです。

- ・留学生には生活費相当額を支給しません（2026（令和8）年4月から1年間のみ生活費相当額の支給が認められる場合があります）。
- ・研究費のみ支給する社会人学生等枠（今回募集するうち、申請区分〔1〕申請要件〔2〕が該当）を新設しました。

<https://www.jst.go.jp/report/2025/250709.html>

## 【申請要件・採用予定者数】

採用区分	申請区分	申請要件（課程・年次等）	採用予定者数
令和8年度採用	[1]	<p>〈1〉2026（令和8）年4月に、下記の本学大学院博士課程・年次に入学し、在学する予定の者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医歯保健学研究科の博士（後期）課程・第1年次</li> </ul>	12名
		<p>〈2〉2026（令和8）年4月に、下記のいずれかの本学大学院博士課程・年次に入学し、在学する予定の<b>社会人学生等</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会文化研究科・自然科学研究科の博士後期課程・第1年次</li> <li>・医歯保健学研究科の博士（後期）課程・第1年次</li> </ul>	
令和8年度補充採用	[2]	<p>2026（令和8）年4月に、下記の本学大学院博士課程・年次に在学する者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医歯学系の4年制の博士課程・第2年次</li> </ul>	1名程度
	[3]	<p>2026（令和8）年4月に、下記のいずれかの本学大学院博士課程・年次に在学する者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区分制の博士後期課程・第2年次</li> <li>・医歯学系の4年制の博士後期課程・第3年次</li> </ul>	2名程度
	[4]	<p>2026（令和8）年4月に、下記のいずれかの本学大学院博士課程・年次に在学する者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区分制の博士後期課程・第3年次</li> <li>・医歯学系の4年制の博士課程・第4年次</li> </ul>	2名程度

※医歯保健学研究科の学生については、前回の学生募集において募集時期を延期していることから、一定の支援対象者数を確保するため、選考に当たってその点を考慮する場合がある。

## 【支援期間】

支援期間は、2026（令和8）年4月以降から、申請区分〔1〕においては最大3年間（4年制の場合は4年間）、申請区分〔2〕は最大3年間、申請区分〔3〕は最大2年間、申請区分〔4〕は最大1年間とする。いずれも、在学期間が3年間（4年制の場合は4年間）を越える場合、以降の期間は支援対象外とする。

出産・育児等のライフイベントを経た者については、個別の事情に応じ、支援期間の中斷・延長等も可能とする。



## 【申請条件】

1. 申請者は、JST SPRING事業及び新潟大学次世代プロジェクトの趣旨を理解し、優れた研究能力あるいは資質・意欲を有し、自由かつ柔軟な発想による挑戦的・融合的な研究に専念することを希望し、かつ上記の申請要件及び下記の条件を満たす者とする。年齢制限、研究分野の指定は設けない。

なお、JST SPRING事業の公募要領に基づき、留学生においては、修了後の日本への定着及び日本の国際競争力向上への貢献を視野に入れ、日本の科学技術・イノベーションに貢献するキャリアに進むことが求められる。また、多様な国・地域、特にASEAN諸国からの受入れを積極的に図ることがJSTの公募要領にて求められているため、選考に当たってその点を考慮する場合がある。

支援対象となる留学生は、「留学」の在留資格をもって日本に滞在する者とする（別紙「研究奨励費支援対象確認表」で対象の可否：×に当てはまるものも含む）。



## 【申請条件】

○申請区分〔1〕の申請要件〈1〉及び申請区分〔2〕〔3〕〔4〕の場合

次に掲げる者を除く。

(1) 生活費に係る十分な水準（240万円／年）の給付型の奨学金を得ている学生

(2) 所属する大学や企業等から、生活費相当額として十分な水準（※3）で、給与・役員報酬等の安定的な収入を得ていると認められる学生

(3) JST SPRING事業と同趣旨の、学生自身の自由で挑戦的・融合的な研究に専念するための国費による研究費等の支援を受ける者（※4）

(4) 留学生で、国内外の機関・法人に役員・職員等として所属しながら大学院に籍を置く者  
(申請区分〔1〕の申請要件〈2〉の申請条件に当てはまれば、研究費の支援対象となる。)

※3 生活費相当額として十分な水準は、240万円／年を基準とする。

※4 例) ・独立行政法人日本学術振興会（JSPS）の特別研究員

・独立行政法人国際協力機構（JICA）から支援を受けるJICA留学生

・JST「日ASEAN科学技術・イノベーション協働連携事業（NEXUS）」の若手育成対象者

## 【申請条件】

### ○申請区分〔1〕の申請要件〈2〉の場合

#### 次のいずれかに該当する者。

- (1) 生活費に係る十分な水準（240万円／年）の給付型の奨学金を得ている学生
- (2) 生活費相当額として十分な水準（※3）で、給与・役員報酬等の安定的・固定的収入を得ていると認められる者（いわゆる社会人学生）のうち、日本の法人格を有する会社法人、国家公務員、地方公務員、企業以外の法人（独立行政法人、財団法人／社団法人、医療法人、NPO法人等）の職員等
- (3) 海外の機関・法人のみに所属し、かつその所属が海外の大学及び公的研究機関等非営利の機関・法人である者（収入の有無に関わらず）
- (4) 日本政府から奨学金を得ている留学生（国費外国人留学生制度の対象学生）のうち、政府所属の者（収入の有無に関わらず）

ただし、JST SPRING事業と同趣旨の、学生自身の自由で挑戦的・融合的な研究に専念するための国費による研究費等の支援を受ける者は除く。（※4）

### ○海外の営利の機関・法人にのみ所属している留学生は、支援対象とならない。

※3 生活費相当額として十分な水準は、240万円／年を基準とする。

※4 例）・独立行政法人日本学術振興会（JSPS）の特別研究員

- ・独立行政法人国際協力機構（JICA）から支援を受けるJICA留学生
- ・JST「日ASEAN科学技術・イノベーション協働連携事業（NEXUS）」の若手育成対象者

2. 次に掲げる事項を全て遵守できる者とする。

- (1) 申請した研究計画を踏まえた研究活動に専念すること。
- (2) キャリア開発・育成コンテンツ（※5）に参加すること（社会人学生（申請区分〔1〕〔2〕の申請条件（2）～（4）に該当する者）を除く）。
- (3) 博士学生交流会（※6）に参加すること。
- (4) 年度始めに研究計画書、年度末に研究成果報告書を提出すること。
- (5) メンターによる面談を定期的に受けること。
- (6) researchmapに登録し、業績を更新すること、及び修了後10年以上にわたって実施するキャリアについての追跡調査を始め、各種調査に協力すること。
- (7) 各種研究法令及び学内規程等を遵守し、研究インテグリティ（研究の健全性・公正性）の自律的な確保がされること。

※5 本学が実施する研究力向上等に関する支援やキャリアパス形成に関する授業等のキャリア開発・育成コンテンツには以下のもの等が含まれる。選択ユニット（後述）により必須となるキャリア開発・育成コンテンツは異なるため、募集説明会等で詳細を確認すること。

①国際力の強化

国際学会発表、海外研修・留学、国際英文誌への積極的な投稿支援。留学生との交流イベント。

②産学連携力の強化

キャリアマネジメントセミナー、実践参加型プログラムによる企業研究者との交流、企業とのマッチング。必要に応じて、「ジョブ型研究インターンシップ」等のインターンシップ。

③トランスファラブルスキルの習得のための支援

ジェネリックスキルセミナー、知的財産教育、プレゼンテーション技法セミナー、アカデミックライティングセミナー、院生会・附置センター各種イベント。

④若手向けキャリアパスの確保

PhDリクルートフォーラム、未来の博士ゼミ、連携大学合同の博士向け企業説明会（企業-学生のマッチングイベント）。

⑤在学中の起業・大学発ベンチャー輩出のための支援

アントレプレナーシップ教育。

⑥データサイエンスに関する知見や技術の習得のための支援

各種スキルの習得セミナー・講習、若手データサイエンティストコロキウム（YDSC）。

⑦異分野融合研究の推進

学内短期留学制度（マルチラボシステム）、URA主催異分野融合イベント「U-goサロン」。

※6 JST等が主催する、博士学生が大学横断的に交流を行う交流会。宿泊を伴う可能性もある。

3. 次世代プロジェクトでは、採用初年度は共通メニューにより、基礎的なアカデミックスキル、トランスファラブルスキル、情報・AIスキルを習得し、更にメンター面談を介して挑戦的・融合的研究をスタートする素地を育成する。

2年次（D2）からは4つの人材育成ユニットに分かれ、各ユニットにより定められた必須の活動及び提供されるコンテンツの中から各自が選んだ活動に取り組む。取り組み状況の評価にあたってはポイント制を導入している。

### **(1) 共通メニュー（採用初年度）**

採択者ガイダンス、キャリアマネジメントセミナー（単位修得済みの者は除く）、メンター面談への参加、researchmap登録、ジョブ型研究インターンシップ専用システムへの登録を必須とする。

## (2) 人材育成ユニット（2年次（D2）から）

### ① 専門深化型ユニット（人数（目安）：各年次3人）

キャリア支援メニューによりトランスファラブルスキル、アカデミックスキルを習得し、自身の専門研究力のさらなる深化を図る博士人材を育成する。支援期間終了までに博士（後期）課程修了規定以上の数の論文を投稿すること、独立行政法人日本学術振興会の特別研究員制度への申請（毎年）、アカデミックライティングセミナーへの参加（年1コース以上）を必須とする。

### ② キャリア型ユニット（人数（目安）：各年次6人）

キャリア支援メニューによりトランスファラブルスキル、ジェネリックスキルを習得し、産学官の広い分野において科学技術・イノベーション創出を担う博士人材を育成する。PhDリクルートフォーラムへの参加（支援期間中1回以上）、ジェネリックスキルセミナー（全3回）への参加（支援期間中1回以上）を必須とする。

### ③ 創生型（クロスAI）ユニット（人数（目安）：各年次6人）

キャリア支援メニューによりトランスファラブルスキル、加速化・多様化するデータサイエンスに関する知見や技術を習得し、クロスAI分野でイノベーションを創出できる博士人材を育成する。YDSCの企画・運営（支援期間中1回以上）、ビッグデータアクティベーション研究センターのセミナー・講習への参加（支援期間中1回以上）を必須とする。

#### **④ 学際研究型ユニット（人数（目安）：各年次14人）**

異分野融合研究を通じて習得した知識・知見を活用して、多様な分野でイノベーションを創出できる博士人材を育成する。学内短期留学制度（マルチラボシステム）を必須（支援最終年度は推奨）とする。学内の他研究室における一定期間（2年次以降の各年次で概ね3か月を目安とする）の研究従事を通じて学生が実施する研究の融合性・学際性を高め、挑戦的・融合的研究展開力の涵養を図ることを目的とするため、人文社会科学系、自然科学系、医歯学系を越える異分野研究交流を積極的に推奨する。また、年度末シンポジウムまたは学内研究交流会等（U-goサロン等）でのマルチラボに関する成果発表（支援期間中1回以上）を必須とする。

上記の他、支援期間中の毎年度、年度末シンポジウムへの参加を必須とする。

支援期間が2年以内の補充採用者（今回募集するうち、申請区分〔3〕・〔4〕が該当）及び社会人学生（申請区分〔1〕〈2〉の申請条件（2）～（4）に該当する者）が取り組む必須の活動等については、別に定める。

（[https://portal.phd.niigata-u.ac.jp/category/fellowship\\_next\\_gen/common](https://portal.phd.niigata-u.ac.jp/category/fellowship_next_gen/common) 参照）

各ユニットへの振り分けについては、申請時のアンケートや採用後のメンターフェード等において希望を調査の上、それまでの活動実績等を踏まえて決定する。（ただし、支援期間が2年以内の補充採用者は、キャリア型ユニットを推奨する。）各ユニットには支援人数（目安）が定められているため、希望のユニットへ進めない場合もある。各ユニットは現時点の予定であり、事業の進捗状況や運営予算の変動により、ユニットの枠組みや支援人数を変更する場合がある。また、本プロジェクトでは、起業及び大学発ベンチャーを創出する博士人材育成の取り組みを新たに開始する予定である。

# 本学博士後期課程学生 96人を支援

※R7年度は107人、R8年度は105人を支援

白背景：必須

D1  
(29人)

キャリア  
の学び

各分野へ

D2  
(29人)

D3  
(29人)

D4  
(9人)

キャリア  
・研究の  
深化と発展

キャリア  
選択

先端未来  
人材

支援  
・担当

## 採択者ガイダンス

## キャリアマネジメントセミナー ※単位修得済の者は除く

## メンター面談

- 支援理念浸透・researchmap登録  
ジョブ型研究インターンシップ専用システムへの登録
- キャリアの選択肢提供（学び）
- 学生自身のキャリア観アウトプット  
・分野選択

リアル  
バーチャル  
リアリティ  
**R & VR**

博士交流  
ネットワーク利用  
メンターの支援

## 面談・審査

### ① 専門深化型 支援人数(目安) : 3人

- 論文投稿  
修了規定以上数
- 学振申請
- アカデミック  
ライティングセミナー

### ② キャリア型 支援人数(目安) : 6人

### ③ 創生型（クロスAI） 支援人数(目安) : 6人

- PhDリクルート  
フォーラム
- ジェネリックスキル  
セミナー
- YDSC企画・運営
- BDA研究センターの  
セミナー・講習

### ④ 学際研究型 支援人数(目安) : 14人

- マルチラボ
- 年度末シンポジウム  
等でのマルチラボ  
成果発表

## キャリアコンテンツ 共通・選択制

- インターシップ  
ジョブ型研究インターンシップを含む
- 企業連携イベント
- キャリアマネジメント  
セミナー
- ジェネリックスキル  
セミナー
- 知的財産教育
- アントレプレナーシップ
- デジタルコンテンツ  
等

## 起業・大学発ベンチャー支援

### ● 博士交流ネットワークの利用 「知の共有」

#### メンター教員

- + スイングバイ・プログラム教員
- + 特任助教

#### BDA研究センター PhDリクルート室

#### UA室

PhDリサーチサポート室 ~2028  
⇒ PhDリサーチ・イノベーションサポート室開設 2029~  
+ 学務部教務課大学院支援係

PhDリクルート室  
2029全学組織化

年度末シンポジウムへの参加



ベンチャー企業の輩出



出身後も新潟大学と産学連携



イノベーションに貢献

## 【支援内容】

### 1. 研究奨励費（生活費相当額）の支給及び研究費の支給

#### （1）研究奨励費（生活費相当額）

申請区分〔1〕〈1〉、〔2〕、〔3〕、〔4〕の申請要件・条件を満たす日本人学生には、生活費相当額 月17.5 万円を2か月毎に支給する。

留学生には生活費相当額を支給しない（別紙「研究奨励費 支援対象確認表」参照）。

ただし、申請区分〔1〕〈1〉、〔2〕、〔3〕、〔4〕の申請要件・条件を満たす私費外国人留学生で、選考審査において特に優秀と認められた者には、2026（令和8）年4月から1年間のみ生活費相当額の支給が認められる場合がある。

申請区分〔1〕〈2〉の申請要件・条件を満たす社会人学生等には、生活費相当額は支給しない。

#### （2）研究費 次のとおり支給する。

初年次（共通メニュー時） : 年額20万円

2年次以降 専門深化型ユニット : 年額20万円

キャリア型ユニット : 年額20万円

創生型ユニット : 年額30万円

学際研究型ユニット : 年額40万円

取り組み内容によって研究費を増額することがある。また、当該年度の支援期間が半年以下の場合は原則として年額の1／2の額とする。

### 2. メンターによる研究環境支援及びアカデミアまたは産業界へのキャリア形成に関する助言や提言

### 3. PhDリクルート室によるジェネリックスキル獲得のためのセミナー等、キャリア開発・育成コンテンツの提供（社会人学生（申請区分〔1〕〈2〉の申請条件（2）～（4）に該当する者）を除く）。

## 【申請書類】

1. 申請書類は以下①～③である。

① 新潟大学次世代プロジェクト支援申請書

(1\_drshien\_shinseisho\_jp\_2026)

② 新潟大学次世代プロジェクト支援申請者に関する推薦書

(2\_drshien\_suisensho\_jp\_2026)

③ 新潟大学次世代プロジェクト支援申請者に関する同意書

(3\_drshien\_douisho\_jp\_2026)

2. 申請者は、申請書類①を提出すること。

3. 申請者は、申請者をよく知る者（可能な限り、申請者の博士（後期）課程における受入教員（指導教員）とすること）を推薦者に立て、推薦者に申請書類②の提出を依頼すること。なお、申請者が推薦書に記載された内容を確認することは禁ずる。

また、申請者は、申請者の博士（後期）課程における受入教員（指導教員）に申請書類③の提出を依頼すること。同意書を作成する受入教員（指導教員）は、申請書類（特に研究計画）をよく確認すること。

（申請書類②・③は、同一教員が作成し提出することも可）

4. 申請書類①～③は所定の様式を次のURLからダウンロードして作成すること。

<https://www.phd.niigata-u.ac.jp/next-generation-project/application-details/>

申請書は、日本語または英語のいずれかの、自身が理解できる言語で作成すること。

第二次審査（オンライン面接：Zoom）では、申請書で記載された言語でのプレゼンテーション（3分）及び質疑応答（5分）を予定している。

申請書類に捏造・改ざん・盗用等の不正行為が認められた場合は厳正に対処します。



## 【申請方法】

1. 申請者は以下の手順により申請すること。

### (1) 申請者情報の登録

申請登録フォーム (<https://forms.office.com/r/Ur2P3L3iSX>) に必要情報を登録すること。

### (2) 申請書類の提出

申請書類①を**fs-spring@gs.niigata-u.ac.jp**へ提出すること（申請書類の作成に際し生成系AIを使用した場合は、用いた生成系AIの名称と使用箇所を明記すること）。申請書類は**PDFファイル**に変換し（必要に応じて自署後にスキャナで取り込むこと）、パスワード「**drshien\_2026**」をつけて提出すること。なお、電子メールの件名を「**次世代プロジェクト支援申請（〇〇〇〇（申請者氏名））**」とし、メール本文に「**氏名・本学博士（後期）課程における所属研究科・申請登録フォームに入力した、現在～在学中～修了後も使用できるメールアドレス**」を記載すること。申請後にやむを得ずメールアドレスを変更する場合は、必ず新潟大学次世代研究者挑戦的研究プログラム事務局へメールアドレスの変更連絡を行うこと。

2. 推薦者は申請書類②を**fs-spring@gs.niigata-u.ac.jp**へ提出すること。申請書類は**PDFファイル**に変換し（必要に応じて自署後にスキャナで取り込むこと）、パスワード「**drshien\_2026rec**」をつけて提出すること。なお、電子メールの件名を「**次世代プロジェクト支援推薦書（〇〇〇〇（申請者（被推薦学生）氏名））**」とすること。

また、申請者の博士（後期）課程における受入教員（指導教員）は、申請書類③を**fs-spring@gs.niigata-u.ac.jp**へ提出すること。申請書類は**PDFファイル**に変換し（必要に応じて自署後にスキャナで取り込むこと）、パスワード「**drshien\_2026rec**」をつけて提出すること。なお、電子メールの件名を「**次世代プロジェクト支援同意書（〇〇〇〇（申請者（学生）氏名））**」とすること。



## 【申請期間】

**2026年1月23日（金）～2026年1月27日（火）必着**

申請書類提出後3日以内（土日祝日は除く）に受付完了メールが届かない場合は、下記問い合わせ先に電話で連絡すること。

また、いかなる理由であっても、提出期限後の申請は不可とする。

## 【選考方針】

審査に当たっては、将来性、発展性が期待され、分野や活動領域に捉われない自由で柔軟な発想と能力もった優秀な学生を採用すべく、以下の点を重視する。

- (1) JST SPRING事業及び新潟大学次世代プロジェクトの趣旨を理解し、【申請条件】  
(本募集要項の3～6ページ)を全て遵守できること。
- (2) 研究に専念する意志があること。
- (3) 研究遂行能力が優れていること。
- (4) 我が国の科学技術・イノベーションへの貢献が期待できる研究内容を含んでおり、発展が期待できること。
- (5) 未来社会を牽引する優れた将来性があり、多様なキャリアパスを視野に入れていること。
- (6) 既存の枠組みにとらわれない挑戦的・融合的研究や新たな研究領域の創出に意欲があること。
- (7) 総合知を修得し、将来顕在化する社会課題解決に意欲があること。
- (8) 産業界との連携研究や地域再生・活性化に資する研究に意欲があること。
- (9) 各種研究法令及び学内規程等を遵守し、研究インテグリティ（研究の健全性・公平性）の自律的な確保ができること。



## 【選考及び結果通知】

選考は、審査委員会において、第一次審査（書面審査）及び第二次審査（面接）により行い、第二次審査の合格者を支援対象学生とする第一次審査の結果は2月26日（木）までに本人へ通知する。第二次審査は3月4日（水または3月5日（木）のいずれかに実施予定である。第二次審査は、オンライン（Zoom）で、プレゼンテーション（3分）及び質疑応答（5分）を予定している。本プロジェクトの趣旨を踏まえ、「本プロジェクトを志望する動機、目指す研究者像」について、スライド1～2枚を用いて説明してもらう予定である（スライドの作成に際し生成系AIを使用した場合は、用いた生成系AIの名称と使用箇所を明記すること）。第二次審査の結果は、3月23（月）までに本人へ通知する。最終選考段階で合格者が定員に満たなかった場合、あるいは、合格者の中から辞退者が出了した場合等に関しては、追加合格を出すか、または追って再募集がある。

**審査の結果通知は、申請登録フォームに入力されたメールアドレス（現在～在学中～修了後も使用できるメールアドレス）に送付する。**

## 【その他】

国における予算措置・支援制度の見直しの状況等により採用予定者数・支援内容等が変更になる場合がある。

採択された者について、大学ホームページ等により所属研究科、氏名、研究課題名等を公表する。

個人情報については「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」に基づき適正に管理する。

## 【問い合わせ先】

新潟大学次世代研究者挑戦的研究プログラム事務局（学務部教務課大学院支援係）

TEL: 025-262-6110 FAX : 025-262-6991 E-mail:fs-spring@gs.niigata-u.ac.jp

### 【新潟大学の博士支援関連サイト】

PhDリクルート室 <https://www.phd.niigata-u.ac.jp>

博士ポータル <https://portal.phd.niigata-u.ac.jp>

次世代プロジェクト <https://www.phd.niigata-u.ac.jp/next-generation-project/>



(6)

# 質疑応答